

研究機関名：誠愛リハビリテーション病院

<p>研究課題名 常食摂取者とソフト食摂取者を分ける要因についての研究</p>
<p>研究期間 H27年11月からH28年10月</p>
<p>対象資料 対象はH26年4月1日からH27年3月31日までに当院を退院した患者のうち、入院中言語聴覚療法が処方され退院時の副食形態が常食またはソフト食であった者。但し入院中嚥下機能検査、発声発話機能検査が施行されなかった者は除外する。また入院時から継続して常食摂取が可能であった者は対象としない。</p>
<p>意義・目的 当院では7段階の段階的嚥下食を採用している。そのうちソフト食、常食の食形態選択においては咀嚼力が最も影響していると考えられる。咀嚼は感覚のフィードバックを要する複雑な口腔器官の協調運動であり、咀嚼を必要とする食品の選択においては、歯牙の状態、各口腔器官の運動能力に加え高次脳機能の影響を受けることが予測される。ソフト食は硬度が低く、凝集性が高く、付着性が低いことが特徴である。一方、常食の物性は食材により多様性があり、より高度な咀嚼能力が必要となる。しかし、咀嚼能力を測る検査の報告は少なく、ソフト食から常食に上げる際の明確な基準はない。 今回の研究では、常食摂取が可能と判断された者とソフト食摂取が妥当と判断された者について、その違いを明らかにし食形態選択の基準を明確にすることを目的とする。</p>
<p>方法 H26年4月1日からH27年3月31日までに当院を退院した患者の診療情報から後ろ向き臨床統計を行う。</p>
<p>本研究の問い合わせ窓口 誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 言語聴覚士 大平 梨栄 〒816-0956 福岡県大野城市南大利2丁目7-2 TEL 092-595-1151 FAX 092-595-1199 E-mail kenkyu@seiai-riha.com</p>